

## AQUA

ここは富水 すどう美術館の新しい活動の場  
 こんこんと水が湧くようにアートも湧めども尽きない希望が湧いてくる  
 水はわたしたちになくってはならないもの「AQUA」が誕生する

2013年1月発行30号 すどう美術館  
 〒250-0853 神奈川県小田原市堀之内373  
 TEL.0465-36-0740 FAX.0465-36-0739  
 info@sudoh-art.com  
 http://www.sudoh-art.com

## すどう美術館での博物館実習

永井温子

みなさんはじめまして、私は専修大学文学部歴史学科3年の永井温子と申します。今年7月から10月に12回、学芸員の資格課程としてすどう美術館で博物館実習をさせて頂きました。

私が現代美術に興味を持ったのは、以前に六本木の森美術館で開催された展覧会で、マルセル・デュシャンの作品に出会ってからです。ヒゲが描かれたモナ・リザ、雪かきのスコップや便器などが展示されているのを見て、こんなものまで作品になっちゃうの!と、私には衝撃でした。それをきっかけに現代アートに関心を持つようになり、3年の博物館実習をすどう美術館に決めました。

実習中に学芸員の仕事を私に教えてくれたのは学芸員スタッフの高橋さんでした。梱包や展示から事務仕事まで、理解が遅い私に丁寧に教えて下さいました。

実習中には多くの作家さんにもお会いしました。「若き画家たちからのメッセージ2012」展の展示のお手伝いをしたとき、私と年が近い方々もおり、身が引き締まる思いをしました。ミラノ在住の松山修平さんには現在のイタリアやエネルギー問題、展覧会についてお話を聞きました。長友紀子さんの展覧会では、展示を手伝わせて頂き、会期中「世界一小さい映画祭」を開催していて、一緒に映画を楽しみました。また、すどう美術

館の近くには「かくれんぼ」というカフェがあります。すどう美術館は近隣との交流もよく行なっています。コーヒーを飲みに行った時、帰る際に「がんばって」と書かれた素敵なポストカードをもらい、とても励まされました。

博物館実習では、搬入や搬出、展示など技術的なこともたくさん経験しました。しかし、それ以上にすどう美術館を中心として集まってくる魅力的な人たちが、すどう美術館が大好きで、その気持ちが美術館の力になっていることがわかりました。

また、実習初日に須藤館長が、「実習のあいだ家族と思ってくれていいからね」とおっしゃってくれたことは、初日ということもあり、固くなっていた私の心から余計な力みが抜け感激しました。副館長さんもいつも実習に行くといらっしゃいと言って、冷たい飲み物を出してくれました。また、副館長さんのお料理が本当においしくて、私の実習の楽しみの一つで、幸せな時間を過ごしました。

実習を通して何よりも印象深かったことは、美術館を取り巻く温かな『つながり』です。

すどう美術館での12日間は私の宝物となりました。本当にありがとうございました。

## 新春を開く

すどう美術館館長 須藤一郎

新年は毎年「新春をひらく」展で始まる。その開くに相応しいテーマを決め、皆さんに作品を作っていただき展示する。これまで「箱」「扉」「扇」などをテーマにしてきた。昨年のお正月は、大震災の後でもあり「心」がテーマであった。本年については何にするか、知恵をしばしば結果「PAGE(頁)」と決め、皆さんに参加をお願いしたのであるが、例年のように七十名を越す方が出展してくるようになった。

それぞれが、未来に向けてどんな頁を開いていただけるのか、とても楽しみである。初日(一月六日)には出展者やご来館いただける方と新年会の開催を予定している。賑やかな会になればうれしいと思っております。また、新春展の二弾目は「すどう美術館コレクション」展である。コレクションを本格的に見ていただく機会がなかなかないので、一月二十六日(土)から二月十六日(土)まで少し長めに期間を取り、途中、一部掛け替えもし、全体で六十点ほど見ていただく予定である。

コレクシヨンの原点となった菅創吉を始めいろいろな作家の作品であるが、その一点一点を「真剣勝負の衝動買い」で購入したものであり、私にとってはそれぞれにドラマがあり、思い入れがある。よく作家が自分の個展を行う時、人がどんな風に見てくれるのか、針の筵に座るような気持ちであると聞くが、自分が選んだ作品を他の人がどう評価してくれるのか、会期中、今度私が針の筵に座ることになるのである。

## 点描

## こんな話でよかったら(17) 仙仁司

## 賢治と私

初めて読んだ賢治のお話は「風の又三郎」9才頃のことだった。西日の当たった大人の本箱の中に見つけてページを捲り、数枚読んだだけですぐに戻ってしまった。難しい旧字体と仮名遣いに突き放された。それでもまだ子供の読む本の少ない時代だったので、何度も挑戦して読み終えた時は誇らしかった。又三郎と地元の子供達との交流の輪に誘い込まれながら親近感を覚え新しい友達が多勢できたような気になり、その後も何かにつけ友達と親しみが益すように楽しんだ。色々読み進むうち、賢治も偉大な作家というよりは賢治君として友人の一人になった。面白いお話をいっぱい聞かせてくれる友達だ。学校教育を通る前に賢治に出会えたことは非常に幸せであった。知識として覚えるのではなく、読んだままに、年相応のレベルの感覚で取り込めばそれで良かったし、賢治界に夢中で遊ぶことで豊かな心になれたし、始まったばかりの思春期を過ごす上でいい目標になった。

多分、賢治に対するこのような感覚は多くの方々も経験なさっているのではないかと考えている。愛好者というよりはみんな賢治君と友達になっている。

盛岡中学以来賢治と面識があった赤い鳥の画家深沢省三は賢治のお話に多くの的確な挿絵を添えて多くの人々も賢治界に引き寄せたが、一人の無能な弟子として、僕はああでもないこうでもない賢治と話合いながら賢治界のイメージを探し求めていた。真面目な研究者諸氏からはこっ酷いお叱りをいただきそんな作品を私は制作している。69才の泣き笑いだ。



白いノート  
お休みします

すどう美術館の2013年のカレンダーは、5月に東日本げんきアートプロジェクトで行った被災地での展示会の作品を使って作りました。展示会に来られた方に絵を思い出していただけたら、とカレンダーをお送りしたところ、岩手県山田町に住んでおられる方から、嬉しいお手紙が届きました。

「げんきアート展では、あふれるほどの愛のシャワーを注いでいただき、私も少し元気を取り戻すことが出来ました。遠くの地より、私たちにに向けて下さる皆様方の支援に接し、元気になった私です。もしかして、自分にも何かやれることがあるのでは、と思い今は福祉施設のご老人さん達に絵手紙や紙はたおりの工作、仮設にお住まいの人達にランプシェード作りなどのボランティアに出かけられる様になりました。この様に自分が活動できるきっかけを与えてくれたのは、すどう美術館のプロジェクトの皆さんと過ごせた2日間があったからだと思います。居心地よく、音楽コンサート、缶ブローチ、ビーズ飾りなどを制作しながら、幸せな時間を持たせていただきました。アートの持つ、そこしれない力をつよく感じております。」

このように「絵や音楽が元気をだすきっかけになった」「近くで本物を見て、聞いて心がやわらいだ」という声を、展示会後にたびたび聞かせていただきました。復興の進まない被災地の状況を目の当たりにし、そこで暮らす被災者の方々の厳しい状況を考えると、わたしたちの展示会などは、ささやかな活動でしかないと感じていましたが、こうして少しでも美術や音楽の力が届いたことは本当に嬉しく、こちらが励まされる思いでした。

「震災のこと、たくさん被災した人々のことを、どうか忘れないでください」これは被災地からのメッセージとして発せられた言葉です。震災の日3.11から時間は確実に過ぎていきますが、そのなかで変わらずに同じ国に暮らす私たちが、被災地に心を寄せていくことが大切なのだと思います。そしてそれが、自分にできることを見つける一歩になると感じています。

続々 世界一小さい美術館ものがたり

すどう美術館ニュース「AQUA」が創刊され、この号が記念すべき30号になりました。平成19年7月に銀座から今の地に移し、5年半になります。ほぼ毎月一回はみなさまにお届けしてきていることになりました。A4一枚の裏表だけの紙面ですが、美術館の考えやいろいろな情報をお伝えし、みなさまからの思いや意見などを載せています。他に類をみないユニークな紙面づくりに、幸い多くの方から楽しく読んでいただくと、ご好評をいただいているのはうれしいことです。このAQUAの紙面づくりは、すどう美術館の支援者で、ヴィオラ奏者の徳澤姫代さんがすべてデザインしてくれています。改めてお礼を申しあげたいと思います。紙面は抜群のセンスです。いろいろな工夫が、紙面のどこかに、

毎回、俳句が数句隠されているのがおわかりでしょうか。姫代、希古、大介、東変木などの俳号が見えてきます。余興ですがこれまでの俳句の中から私が思いなと思った句をそつとご紹介します。

内側の森の透ける ひきがえる 姫代  
 がん告知 海蟹の 寡黙かな 大介  
 雲の峰 大切なものが そこにある 東変木  
 豆腐屋の隣は肉屋 秋の雲 希古



編集後記

「無私の日本人」(磯田道史著)という本を読んだ。この本の主人は江戸時代を生きた名も無い庶民、穀田十三郎と言う。八人の同志を得て知恵と勇気を持って仙台藩に立ち向かい、貧困にあえぐ仙台藩吉岡宿を救った。

次々と押し寄せる難問を決してあきらめず、自らの財産をだしあって、吉岡宿が滅びるのを防いだ。子孫、末代のことを考えて私利私欲を捨て藩に立ち向かっていく。こんなにも美しい日本人がいたことに勇気づけられた。

どちらを向いても閉塞感の強い今、どうしたら良いのかみんな自信を喪失している。年末に行われた選挙も混乱をきわめ、政治はどうなるのか、原発問題はどこにむかっているのか。不安はいつに消えないうが、年明けにふささない大きな人間と出会った。

須藤紀子

AQUA 創刊30号

すどう美術館 高橋玉恵

第5回新春をひらくPAGE展  
2013年1月6日(日)~20日(日)  
11:00~19:00(最終日~16:00)月曜休館  
「ページ」というテーマから自由に発想された70名の作家の作品を展示します。  
どんなページが開けるか、楽しみな展示会です。

すどう美術館コレクション展  
2013年1月26日(土)~2月16日(土)  
11:00~19:00(最終日~17:00)月曜休館  
「真剣勝負の衝動買い」、館長が、そんな思いで集めたコレクションです。  
中心となる菅創吉作品のほか、会期中一部掛け替えも行い、全体で60点ほどの作品を展示いたします。

展示会 info

AQUA クラブ入会のご案内

現代の「美」を育てること、深めることは次の世代への橋渡しとしても、とても大事なことだと思います。すどう美術館がその担い手として今後も活躍できるよう、友の会AQUAクラブとして支援し、文化向上の役目を果たせる喜びを分かち合いたいと思います。

どうぞご協力をよろしくお願いします。  
すどう美術館友の会「AQUAクラブ」会長 伊藤聖治

- 年会費  
一般会員 3,000円  
特別会員 10,000円  
法人会員 50,000円 入会随時  
納入方法 ご来館時または郵便振込みでお願いします  
・郵便振込み No.00270-7-97439  
・加入者名 すどう美術館友の会「AQUAクラブ」